

# SUMS News



## 「第30回 碧鈴祭」を開催します！

大学祭実行委員会

今年のテーマは『絆～今だからこそ～』

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、前期に引き続き、後期においても対面とWEBを利用した遠隔によるハイフレックス型の授業が行われています。クラブ・サークルの活動再開は10月に入りようやく目途は立ったものの、活動の内容は限定的・段階的にと依然制限が付いた中での再開であるとともに、学友会で計画されていた学生交流事業の多くも中止されました。

このような状況の中で、新入生と在学生・各学部学科間・学生と教職員の関係性を希薄化させることなく、学年・学科の垣根を越え、全学生・教職員が大学祭を通して繋がるきっかけになるようにとの思いを込めて『絆～今だからこそ～』としました。

絆という言葉は、言うまでもなく「心の繋がり」や「強い信頼関係」を意味し、大切な人達といつまでも繋がってられるように、また、大変なときだからこそ繋がり・関係性を深めながら共に難局を乗り越えるために励まし合いたいと考えています。

このような思いから、今年度のテーマを『絆～今だからこそ～』としました。

とは言え、今年は例年よりかなり規模を縮小した形での実施となります。このような状況ではありますが、少しでも皆さんに楽しんでいただけるよう、大学祭実行委員を中心に日々準備を進めています。それぞれの可能な範囲にはなりますが、ぜひ碧鈴祭をお楽しみください！

### ◆ ハイフレックス学祭！「第30回 碧鈴祭」

- ＜開催日時＞ 2020年11月7日(土) 10:00～17:00
- ＜開催場所＞ 千代崎キャンパス
- ＜開催方法＞ 学内での開催及び、同時WEB配信によるハイフレックス開催
- ＜参加対象＞ 在学生（一般公開は行いません）
- ＜イベント内容＞
  - ・クラブ・サークル発表
  - ・大学祭実行委員会企画：「巨大パズル」
  - ・トークショー：ゴルゴ松本氏による「命の授業」  
(今回は、学科発表・模擬店・後夜祭は実施しません)
- ＜感染症対策＞ マスクの着用、手指消毒、体温チェック、健康調査、入場制限、座席間隔の確保、密集を防ぐための要員配置

※実施内容は、情勢に応じ変更になる場合があります。



＜学生課＞

## 令和2年度 学友会が始動！

学友会会長 藤岡 大樹 (医用工学部臨床工学科 3年)



令和2年度 学友会会長を務めます 医用工学部 臨床工学科 3年 藤岡大樹と申します。

例年、学友会の会長は5月の学生総会で選出され、本紙(SUMS News)では7月号でご挨拶させていただいているところですが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対応により、年度当初から登校自粛・オンラインによる授業でスタートしました。

また、同時にクラブ・サークル活動も停止され、私たち学友会が主催する行事も中止 又は、延期されるなど、なかなか学生同士の交流を深める機会が持てないまま時間が過ぎてしまいました。

このような中、7月にSUMS-POを利用した学生総会を行い、8月には、例年新入生歓迎で行っていたクラブ・サークルの紹介をZoomにより行いました。今のところ、現状のまま大きく状況が悪化しなければ、規模を縮小して碧鈴祭(大学祭)も11月に開催するよう進めています。

これまであたり前に出来ていたことが思うように進められない1年にはなりそうですが、クラブ・サークル委員会や各種学生団体とも協力し合いながら、一つひとつの取り組みを通して学生間の交流が少しでも深められるよう、執行部員とともに検討・実施していきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

クラブ・サークル運営委員長 松永 ひなの (保健衛生学部医療栄養学科 管理栄養学専攻 2年)



保健衛生学部 医療栄養学科 2年の松永ひなのと申します。

この度、クラブ・サークル運営委員会委員長を務めさせて頂くこととなりました。

今年は新型コロナウイルスが流行し、クラブ活動ができない状況が続きました。そんな中でも、学友会との協働でZoomにより開催したクラブ・サークル紹介では、各団体の特色を活かした発表で、多くの1年生に参加してもらうことができました。このクラブ・サークル紹介は、委員長になって初めての大きなイベントだったこともあり、学友会の方と何度も打合せをしたり、各団体の代表者の方から意見を募ったりして大変だと感じる時もありましたが、今は無事に終えることができていると思っています。正直、最初に委員長に任命された時は、私にクラブ・サークルをまとめることができるのかと不安でいっぱいでしたが、各団体の代表者の方も協力的で、感謝の気持ちを抱くのと同時に達成感にも包まれています。

今年はすでに多くの大会や行事が中止となり、例年通りとはいきませんが、クラブ・サークルに所属する学生一人ひとりが安心し、充実した活動が行えるよう、これからも尽力したいと思っています。まだまだ未熟で至らない点多々あるかとは思いますが、1年間よろしくお願ひします。



— 学友会主催「クラブ・サークル紹介」を行った時の様子です —

## 学友会主催の『クラブ・サークル紹介』を行いました！

学友会会長・医用工学部臨床工学科 3年 藤岡 大樹

例年、新入生歓迎会の中で行っている「クラブ・サークル紹介」ですが、今年度は、歓迎会を含めた新入生のガイダンスが中止となったため、各クラブ・サークルの紹介や勧誘が行えないまま数か月が過ぎていました。また、クラブ・サークル自体も大学から活動自粛の要請があり活動できない状況が続いていました。

このような中、新たに「課外活動再開における新型コロナウイルスの感染症予防対策ガイドライン」が大学から示され、10月中旬から限定的・段階的ではあるものの活動再開の見通しが立ったため、このタイミングで「クラブ・サークル紹介」を計画・実施しました。

クラブ・サークル紹介は、感染症対策を十分に行った上で、B講義棟の教室からZoomによる配信を行い、主な対象となる1年生は下宿や自宅等で視聴してもらう形により行いました。

実施日の8月12日(水)は、全クラブ・サークル+学友会・大学祭実行委員会の計37団体がカメラの前に立ち、ユニフォーム姿や楽器の演奏・活動時の写真を見せるなど、1年生の興味・関心を引き付けるための工夫を行いながら紹介・勧誘を実施しました。

また、視聴側の1年生も約70%に当たる460名からアクセスがあり、関心の高さを感じることができました。

今回は、これまでにはない形での実施となり、準備段階でも苦労することが多い催しとなりましたが、学友会メンバーの力を借りながら何とか乗り切ることができました。

学科・学年を越えた交流はやはりクラブ・サークルへの加入が一番適していると思います。

学友会一同、1年生の積極的な入部を応援しています！（写真は2ページに掲載しました）

## ボランティアセンター主催

### 『新型コロナウイルス感染症拡大防止 応援標語・スローガンコンテスト』

ボランティアセンターでは、学生・教職員が一体となって鈴鹿医療科学大学と大学に関わるすべての人を元気づけるために、また、一人ひとりが新型コロナウイルスの感染症拡大防止に努めるために、学生・教職員を対象に応援標語・スローガンを募集しました。

今回の募集では多くの方に関心を持っていただき、学生部門・教職員部門合わせて101名・179件の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

10月5日(月)に学生部門の表彰を行い、ボランティアセンター長の高木久代副学長より表彰状と記念品が贈られました。最優秀・優秀作品は次のとおりです。



(左から) 蛭川さん、高木副学長、  
太田さん、加藤さん

#### 【最優秀賞】

『S、消毒 U、うがい M、マスク S、しばらくの辛抱』 医用情報工学科 蛭川 寛大さん

#### 【優秀賞】

『New Normalは鈴鹿から』 放射線技術科学科 山本みらのさん

『考えよう 自分のために 家族のために チームのために』 医療栄養学科 加藤 優華さん

『オンライン 身近に感じる 学びと心』 医療福祉学科 太田恵理子さん

#### 教職員部門

#### 【最優秀賞】

『うつらない！ うつさない！ 見せつけよう医療人の底力！』 大学事務局教務課 松原 奈未さん

#### 【優秀賞】

『クラスター 感染経路は 君が断つ』 放射線技術科学科 川野 誠 教授

『手を洗い マスクを着けて 大学へ』 放射線技術科学科 川野 誠 教授

『Fight the Virus with SUMS pride !』 法人事務局管財課 宮崎 和裕さん

『きっと来る コロナの先の 明るい未来』 法人事務局企画広報課 山崎 領さん

<ボランティアセンター・学生課>

## 令和2年度四日市市スポーツ栄光賞を受賞

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 1年 安 夏希

医療福祉学科 医療福祉学専攻の安 夏希です。この度、個人的に続けてきたパラ陸上競技で、昨年の「天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラ陸上競技大会 women T34\* 400m 優勝」の成績について、7月29日(水)に「令和2年度四日市市スポーツ栄光賞」を授与頂きました。

※T34とは、トラック競技の「T」、そして、公平な競技のための障がいの種類と程度による「クラス分け」による番号「34」を表します。この場合、30番台なので脳原性のみ、さらに1の位の数が大きいほど障がい较轻い事を表し、脳原性のみのある車イス競技者では最も障がい较轻いクラスです（なお35～38は立位で競技するクラス）。このクラス分けの仕組みがパラスポーツの特徴のひとつです。

パラ陸上競技でも、新型コロナウイルス感染症の拡大により今年度の大会の中止や延期が相次いでおり、苦況ではありますが、来年三重県で開催される全国障害者スポーツ大会、さらにパラリンピック出場を目標に努力していきたいと思います。

<医療福祉学専攻>



## 慢性疼痛（チーム医療Ⅱ）ワークショップ（WS）を開催しました

慢性疼痛教育委員長  
医用工学部 臨床工学科 教授 丸山 淳子

8月19日(水)～21日(金)に行われたWSに、三重大学医学部生26名と本学学生33名の計59名が参加しました。今年度はCOVID-19拡大防止のためZoomでの開催となりました。

第一日は自宅の学生と、本学、三重大学が画面でつながり、東洋医学的体質診断（写真1）、鍼灸（写真2）、葉膳、マインドフルネス、筋力評価の講義を受講しました。画面を通して腰痛体操（写真3）も体験しました。遠隔形式という限られた状況の中でも教員によるさまざまな趣向や工夫により、興味や理解が深まったとの感想が学生から多く寄せられました。

第二日は、一般的な課題を通してチームワークの重要性について考えました。さらに第二日後半から第三日にかけて、慢性疼痛に苦しむ模擬患者の病態を把握し、今後の治療の方針をチームで考えました。模擬患者とのロールプレイも体験しました。ブレイクアウトルームを利用してグループディスカッションが行われ、両大学の教員がサブファシリテーターとして参加しました（写真4）。今年度は教員がそれぞれの領域の専門職のプロとして学生との質疑応答の時間が設けられ、問題解決に生かされました。学生の満足度も大変高く、深い学修効果が得られたようです。また、それぞれの専門領域の重要性を実感してくれたと思います。終了後には、過去にWSを受講した学生で運営されている「学生サポーターの会」との交流も行われました。

カリキュラム上の問題で履修できなかった学科・専攻の学生も、来年度からは参加が可能になります。私の所属する学科学生も将来、医療機器を通して慢性疼痛治療に関わることも予想され、今後は積極的に参加してもらえればと思っています。



写真1

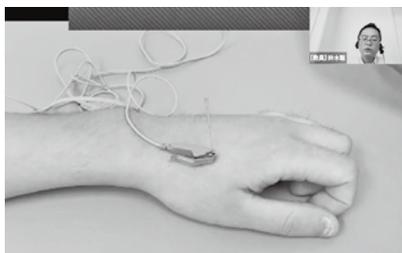


写真2



写真3

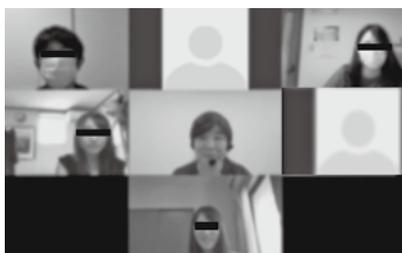


写真4

## 工夫を凝らした学生交流会

### 臨床検査学専攻 コロナ禍の1年生に情報交換会

IR推進室 教授 荻津 直通

本年度の1年生は、コロナ禍のため4月2日のガイダンス以降、すべて遠隔授業であったため学生間の交流がほとんどない状態でした。6月から一部、対面の授業が開始されたことより6月26日(金)に「情報交換会」を開催しました。情報交換会は1年生の自己紹介、教員からは、学生からの事前の質問事項に答える形で自己紹介が行われ、上級生からは学生生活のアドバイスがあり、私が「コミュニケーション力の創り方」の話をしました。

その後、コミュニケーション力の実践として、複数人での合意を得るコンセンサス実習を行いました。実習の材料はNASAゲーム(月で遭難したら)を用い、6人が1グループで活動を行いました。まず、各自が自分の優先順位を考え、その考えをもとにチームの優先順位を決定し、得点を競いました。初対面に近いメンバーであったにも関わらず話し合いはスムーズに進められました。

事後の学生のアンケートから、コミュニケーションの実践は、多くの学生と深く話すことができ、新しい出会いでの積極的なコミュニケーションの環境を作ることができました。また、このゲームの目的は、合意を得ることの難しさを体感することにあります。学生の意見では、グループでの合意形成の難しさを体験できたことが良い経験となったと感じられました。

コロナ禍でありながらストレスを感じられる学生はほとんどなく、今後、学生間の協調性を重要課題として指導する努力していきたいと思えます。

### 薬学科 若手薬剤師と薬学部生のオンライン交流会

薬学部 薬学科 教授 西田 圭吾

8月31日(月)に、薬学部の学生部と就職・キャリア支援委員会共同で「若手薬剤師と薬学部生のオンライン交流会」を実施しました。例年、薬学部では就職支援の一環として本学卒業生を中心とする若手薬剤師を招聘し、薬剤師の仕事、学生時代の勉強・研究、就職活動などの幅広い話題についてお話しいただいています。本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対応として、オンライン形式での開催とし、在学生の枠組みを広げ低学年も参加できるような交流会として企画しました。オンライン交流会では、在学生150名と教員25名、パネリストとして若手薬剤師6名と大学院生3名が参加し、交流を深めました。

参加した学生からは、低学年での勉強の仕方、研究室配属について、CBT(共用試験)や国家試験に向けての対策などのテーマが参考になったとの声が多くあがりました。遠隔講義が続き、大学に登校する機会が減っていることで、勉強に対するモチベーションを維持するのが難しいと感じている学生もいたようです。そのような中、交流会を通して先輩の体験談を聞くことは、良い刺激になったものと思われまます。本交流会への参加が、後期の遠隔講義に前向きな気持ちで取り組むきっかけになることを願っています。

最後に、本オンライン交流会の企画・運営に携わった関係者の皆さまに、この場をかりて、感謝いたします。

### 看護学科 1年生学生交流会

看護学部 看護学科 助教 森山 小統子

本学では4月に新入生を迎えて以降、コロナ禍で登校自粛が続いています。1年生にとっては思い描いていた大学生活を過ごせず、新たな仲間づくりもできず、不安な日々が続いています。看護学科では1年生に対する学生支援を早期から検討し、交流会を開催しました。

5月11日(月)に開催した第1回目の交流会では、Zoomを使ってリモート交流会を行いました。1年生が小グループに分かれて1時間程度コミュニケーションをしました。わずかな時間でしたが、授業でのグループワークとは違ってリラックスして話げできたようです。

1年生からは2回目の交流会を望む声が多く聞かれました。そこで、登校日に合わせ7月1日(水)に第2回目の交流会「白子キャンパスウォークラリー大会」を開催しました。対面での交流会は初めてとなり、クラス委員である学生4名と教員で企画・運営しました。少人数チームに分かれ、感染予防に留意しながらキャンパス内を散策し、構内の数か所に設置されたクイズに回答しながらゴールを目指すというものです。看護の知識を問う問題、大学にちなんだ問題に皆で頭をひねり、時に教員との交流を図りながら楽しんで取り組むことができ、大盛況でした。キャンパス全体を散策することで施設の場所や利用方法について理解でき、適度な運動によって気分転換にも繋がった様子でした。同じ目標をもってチーム活動することでコミュニケーションがより活性化し、新たな友人ができる機会となりました。同じ看護を学ぶ仲間同士、ともに活動できることに喜びを感じられたひとときでした。看護学科では、今後も学生の声に耳を傾けながら、学生支援について考えていきたいと思えます。





# 社会福祉士を目指しコロナ禍を乗り越えて臨んだ福祉現場への第一歩 — 2020年度相談援助実習を終えて —

保健衛生学部 医療福祉学科 教授 松浦 信

医療福祉学科 医療福祉学専攻では、3年生と過年度生合わせて26名が三重県を中心に24施設で8月7日(金)から23日間の社会福祉士養成のための相談援助実習(現場実習)を行いました。今年度の現場実習は、コロナ禍の影響で現場での実習が危ぶまれる中、実習施設や実習時期(期間)の変更が一部ありましたが、実習生全員が現場実習に臨むことができました。



現場実習に向けての事前指導(学習)は、4~5月にかけて他の授業同様に遠隔授業となり、実習計画書の作成にあたって、例年は対面での指導は授業時間外を含め何度も行ってきました。しかしながら、今年度は、遠隔授業での指導が中心となり、6月の対面授業の開始から登校日に限る対面での指導には、学生も教員も大変苦労しました。

また、実習に臨むにあたり、感染症対策の一環としては、実習生向けの感染症対策マニュアルや独自の体調管理シートを作成し、さらに、携帯用アルコール消毒スプレーを配布するなど実習へ向けての準備をあわせて進めてきました。

実習開始後は、実習期間中に行う訪問指導や帰校日指導を部分的に遠隔授業の形での指導に変えるなど、実習生が実習施設と自宅等の間の移動だけで済むよう感染症予防に努めました。

福祉施設での現場実習を取りやめて学内実習に変更する大学が数多くある中で、本学では無事に現場実習を行うことができたことは、実習受け入れ施設の深い理解をはじめ、実習生の懸命な実習への取り組み、実習担当教員のきめ細かな対応や入念な準備があつてのことであると考えます。

現在、実習生は、事後指導(学習)の途中であり、現場実習で得られた経験や気づきなどの振り返りを行いながら、相談援助実習報告書の作成や相談援助実習報告会へ向けた準備に邁進しているところです。苦難のなかでの現場実習が今後の学びにつながることを願ってやみません。

<医療福祉学専攻>

## 総合臨床実習を通しての感想

保健衛生学部 理学療法学科 4年 松田 聡馬



私は、木阪病院に7週間、京都府立医科大学附属病院に3週間実習へ行かせて頂きました。実際に臨床の場を経験することで、患者様により良い医療を提供することの重要性を理解しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により当初の実習予定と異なり、精神的につらい部分もありましたが、実習先の指導者の方々や学校の先生方のご指導により、自分の至らない点についてより深めることができました。

今回の実習で一番学んだことは、医療人としての自覚を持つということです。病院には、感染症により状態が増悪する方がたくさんいるため、病院全体で徹底した感染症対策を行っていました。そのような場を見させて頂いた時に感染を広げないよう絶対に自分が感染してはならないと感じました。自分が感染したことにより患者様、病院全体に多大なる影響を及ぼしてしまいます。このような点で自分が1人の医療人として自覚を持ち、感染症対策を徹底することが重要であると学ぶことができました。

「患者様の事を第一に思って治療をする」この事を考えながら今回、患者様に治療を進めていきました。患者様のことを思って接していくと、分からない問題に対してなぜこの動作が出現しているのかと疑問が自然と出てくるようになりました。このような経験を踏まえて、理学療法士として治療していく上で「患者様の事を第一に治療をする」この事を忘れずに、患者様の治療を行っていきたいと思います。

今回学んだ事・経験した事を無駄にしないように、今後も医療人としての自覚を忘れず理学療法士になれるよう勉学に励んでいきます。

## 教育支援の会『オンライン保護者懇談会』を開催

例年は保護者の方にご来校いただき、担任教員等と対面により実施している保護者懇談会ですが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、オンラインによる懇談会を10月4日(日)に開催しました。

一部の保護者の方には慣れない方法による開催となりお手数をお掛けすることとなりましたが、在学生たちが日々経験するオンライン授業の雰囲気を知っていただく機会にもなったのではないかと考えています。また、オンラインによる保護者面談は本学にとっても初めてのことであり同時に、他大学での実施実績もあまりないことから、トラブル等の発生を心配しておりましたが、保護者の方のご協力もあり特に大きな問題もなく無事に終えることができました。



<学生課>

## 新学科「医療健康データサイエンス学科」のオープンキャンパス

医用工学部 医用情報工学科 教授 鶴岡 信治

本学のオープンキャンパスが7月12日(日)、8月8日(土)、9日(日)、9月27日(日)に開催されました。

参加者数は、それぞれ、9名、13名、21名、21名となり、次第に増加しています。この参加者の増加は、医用工学部長、医用情報工学科長をはじめとする各教員、入学課、企画広報課の皆様のご努力である本学ホームページ(動画を含む)、大学入試情報サイト、近鉄の車内広告などでの広報活動により、徐々に高校生に新学科の設置が伝わったものと推測されます。

当日は、学科別説明会の時間より早く集まってくれた意欲的な参加者が多く、事前にSociety5.0に関するビデオ



ソーシャルディスタンスを保ったオープンキャンパス

を視聴してもらい、未来の日本の姿をイメージしてもらいました。説明会は、クイズを交えたパワーポイントのスライドを使用し、参加者の意見を聞き出す形式で、データサイエンス(人工知能)とは何か?医療健康データサイエンスとは何か?キャリアパス、授業紹介、進路状況を説明しました。最後に在学生とのQ&Aを実施し、参加者からの学生生活などに関する質問に在学生が答え、意見交換の場を設け、学科の内容を楽しい雰囲気の中で理解してもらい、進学意欲を向上させることができました。

## 「第8回SUMS-NITS医工連携研究会」が開催されました

副学長(大学院・研究担当)・社会連携研究センター長 鈴木 宏治

9月25日(金)白子キャンパスにて、「第8回SUMS-NITS医工連携研究会」が開催されました。SUMS-NITS医工連携研究会は、鈴鹿医療科学大学(SUMS)と鈴鹿工業高等専門学校(NITS)の研究者が連携して医療に関わる新技術の研究開発や新事業の創出を図ることを目的として2017年から開始され、2018年には「SUMSとNITSにおける学術研究交流に関する協定」が締結されています。

本学の豊田長康学長の挨拶に続き、NITSとSUMSから各1題の講演がありました。

講演1は、NITSの材料工学科 兼松秀行教授によるもので(演題名:Gear5.0プロジェクトと医工連携ーSUMS三浦准教授との共同研究の進捗状況と今後ー)、文部科学省に採択されたGear 5.0プロジェクトが紹介されました。その内容は、全国複数の高専の材料科学・材料工学研究室と企業が産学官協働研究室を構築し、学生の教育と研究、広域に及ぶ教員間の研究協力、学問の境界を越えた複合・融合領域での展開、産学官の壁を越えた連携と“共育”によって事業を遂行し、新しい製品開発と社会実装、人材育成を目指すというものです。実践例として、この医工連携研究会をきっかけに開始された、兼松教授と本学・三浦英和准教授(臨床工学科)の共同研究の成果と、JSTイノベーション・ジャパンへの出展事例が紹介されました。

講演2は、SUMSの医用工学部医用情報工学科 鶴岡信治教授によるもので(演題名:医療現場のニーズから始めた医工連携による画像診断支援システムー網膜OCT画像解析システムの開発研究ー)、眼科用光干渉断層装置(OCT;Optical Coherence Tomography)の開発事例が紹介されました。鶴岡教授らの研究グループは、医師の作業時間と手間を短縮するために、網膜内階層の境界を世界最高の精度で自動輪郭を追跡する新しいアルゴリズムを作製し、網膜内階層の輪郭を追跡したデータを基に3D表示システムを開発し、現在、この輪郭追跡機能ソフトウェアがOCT製品に搭載されているとのこと。このソフトウェアの開発研究に携わった大学院生は現在、OCT開発企業で新製品の開発を行っており、産学連携による医工連携研究の重要性が紹介されました。

両講演とも研究成果をいかに社会実装するかに焦点を当てた有意義な内容であり、今後のSUMS-NITS医工連携研究会の継続・発展が期待されます。最後に今後取り組むべき活動について参加者による意見交換が行われ、今年4月に就任されたNITSの竹茂求校長からご挨拶ならびに本研究会初参加を通しての感想を頂きました。

<研究振興課>



## 開院後 4 年目のこころのクリニック

附属こころのクリニック院長・保健衛生学部 医療福祉学科 教授 大谷 正人

2017年5月に附属こころのクリニックが開院しました。鈴鹿市、四日市市を中心として三重県の北勢地区、中勢地区などから、多くの患者様とご家族が来院されています。いろいろな事情で診察日は月曜・火曜・金曜の週3日ですが、こころのクリニック延べの受診者数は、2017年度が1,103人、2018年度が1,991人、2019年度が2,411人と増え続けています。こころのクリニックの大きな特徴は、毎年新たにこころのクリニックを受診される240～250人程度の方々（初診患者）のうち、2歳から18歳までの年齢のこどもが80%以上占めていることです。こころのクリニックは、地域社会のこころの健康増進に寄与するとともに、学生の教育に役立つことも目的として開設されました。診察を受けていただく方々のご了承が事前にいただけた場合、公認心理師や臨床心理士をめざす大学院生が診察や心理検査に陪席することもあります。

2020年度は新型コロナウイルス感染症のため、学生が大学構内に入ることができない期間がありましたが、クリニックでは応召義務（診療行為を求められた時、正当な理由がなければ拒んではいけないという医師法で定められた義務）があり、薬物療法など緊急性の高い医療行為を行う関係で、新型コロナウイルスが流行しても、暴風警報などが出ても基本的には閉院することはできません。実際に2020年もこれまでとかわらない数の患者様が来院されています。

診療を担当する医師が一人しかいないなどの課題はありますが、感染予防などに十分留意しながら、地域のため、学生の教育のために微力を尽くす所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

<臨床心理学専攻>

## 当事者として作業療法を受けた葉山靖明氏の特別講義

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 今井 あい子

作業療法学専攻の必修科目である基礎作業学では、作業療法の「作業」とは何なのか、また、対象者の意味ある作業を実施・継続することについて学びます。7月15日(水)には、作業療法の方法や効果をより深く理解するために、当事者として作業療法を受けた葉山靖明氏をお招きして2年生を対象に特別講義を行いました。

葉山氏は、40代で脳出血を発症され右片麻痺となられた当事者です。作業療法を中心とした治療により、現在では社会復帰をされ、福祉施設を運営されています。また、これまでのご経験をまとめて三輪書店より「だから、作業療法が大好きです！」の本を出版されています。

特別講義を受けた学生の多くは、実際に作業療法を受けた後、社会復帰されて生活している当事者の話を聞くのは初めての経験でした。葉山氏により語られる発症後の絶望や不安は、当事者の方しか語ることでできない言葉であり、今回の特別講義は学生にとって、他に代え難い貴重な経験であったと思われます。

治療を担当された作業療法士は、葉山氏に対して「患者」という側面だけではなく、様々な人生歴をもつひとりの人間として関わり、信頼関係を築き、意味のある作業を治療手段として用いました。葉山氏は、作業療法を通して、自分の残された能力に気づき、人生に希望を持つことができたと話されました。具体的な治療経験を通じた作業療法の臨床場面を聞くことで、私自身も、あらためて作業療法の可能性と作業療法士の責任を痛感しました。



休憩中、笑顔の葉山氏

講義後、学生の葉山氏に宛てた手紙には、「作業療法士の進路を選んで良かった」「誇りを持って作業療法士への道を歩んでいきたい」という言葉が並んでいました。この講義で学生の心に灯った火を大切に育てながら、今後も学生と共に歩めるように頑張りたいと思います。葉山さま、ほんとうにありがとうございました。

<作業療法学専攻>



葉山氏の書籍

## 教員による研究成果について

### ネイチャー・リサーチ社の学術雑誌 Scientific Reports に掲載

真菌症は、がん患者や臓器移植患者、AIDS患者など免疫力が低下した人に起きやすく、人口の高齢化に伴い患者は増加傾向にあります。この真菌症に対する治療薬は少なく、予防を含めた治療対策が大きな課題になっています。

一般に細菌や真菌などには、環境変化に伴って病原性や薬剤に対する抵抗性（薬剤耐性）が増す性質があり、そのメカニズムの解明が急がれています。本学薬学科の中山浩伸教授と森田明広助教は長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の宮崎泰可講師らと共同で、临床上重要な病原性真菌カンジダ・グラブラータを用いて、環境変化を細胞内に伝える際に働く真菌内酵素の一つである Elm1 に着目し、その役割を解析しました。Elm1 は真菌の分裂や形態形成、薬剤耐性などに関わるセリン/スレオニン・リン酸化酵素の一種ですが、病原性との関係は明らかではありませんでした。解析の結果、Elm1 遺伝子を欠損した変異株や Elm1 酵素の活性を消失させた変異株では、薬剤感受性の上昇、増殖の遅延、細胞の形態異常、病原性の上昇が認められました。この病原性の上昇の原因には、真菌の上皮細胞への接着性の亢進が考えられ、実際に変異株で処理した上皮細胞では30個の細胞接着関連分子の発現増加が認められました。

病原性真菌の病原性の上昇に Elm1 酵素が密接に関わることを証明した本研究は、今後の真菌感染症の予防薬や治療薬の開発につながるものと期待されます。

研究者：薬学部 薬学科 教授 中山浩伸・薬学科 助教 森田明広

掲載論文：Yuya Ito, Taiga Miyazaki, Hironobu Nakayama, Akihiro Morita, et al. Roles of Elm1 in antifungal susceptibility and virulence in *Candida glabrata*.

Sci Rep 2020 Jun 17;10(1):9789. doi: 10.1038/s41598-020-66620-7

＜副学長（大学院・研究担当）鈴木宏治・研究振興課＞

## 推薦します

### 図解 腫瘍薬学

編集：薬学部 薬学科 教授 川西 正祐・薬学科 教授 大井 一弥

出版：南山堂



日本人のおよそ2人に1人が「がん」になり、3人に1人が「がん」で亡くなっており、今や、「がん」は我が国民の最大の健康上の脅威です。しかし、これまで薬学領域では「がん」に特化した教科書はありませんでした。

近年、「がん」に対しては治療だけでなく予防の重要性が増しており、その薬学的アプローチが課題になっています。そこで、発がんから抗がんまでのすべてを薬学的視点から見直し、基礎薬学から医療薬学・臨床薬学領域まで系統的にがん患者をケアする学問体系を新たに構築して「腫瘍薬学」と定義し、この考えに基づき、11年前に初版『腫瘍薬学』が刊行されました。

しかし、その後の「がん」に関する基礎・臨床研究の発展は目覚ましく、この度、本学と全国の薬学部教員の協力の下、「がん」の発生機序から治療と予防に関する最新の研究成果をまとめ、また内容を理解しやすいように図解して編集された教科書『図解 腫瘍薬学』が刊行されました。

本書は、薬学生や薬剤師、がん予防やがん治療に関わる研究者や医療関係者にとって読みやすい内容になっています。

# 学生相談室通信

学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

## 道草のすすめ

みなさんは「道草を食う」という言葉を知っていますか？寄り道することも道草を食うと言いますし、余計なことに無駄な時間を費やすことを表す場合もありますが、個人的には、道草を食うのはやっぱり道端じゃなければ…と思っています。

何を隠そう、私は子どもの頃から道草ばかり食っていました。幼稚園や小学校からの帰り道、道端に小さな雑草が生えていたり、アリの行列を見つけたり、ダンゴムシがいたりするとつい覗き込んでしまい、すっかり時間の経つのも忘れて雑草やアリのじっと観察していました。生物学者にはなりませんので、あまり役に立ったとは言えません。ですが、何十年も経った今でもあの時の感動は忘れられません。とても豊かな時間だったと思います。

実は今も道草を食っています。通勤の道すがら、千代崎駅から大学までの道、特に田古地川沿いの小道が道草を食うにはぴったりでお勧めです。白子駅から白子キャンパスまでの道も面白いところがあります。桜の森公園もいいです。野草の花は小さいので近づいて、よくよく見なければなりません。写真を撮って、後で野草図鑑で名前探しをすることもあります。何の役にも立たないことですが、これこそが道草の醍醐味だと思っています。急ぎの用事があるかもしれませんが、ほんの少し、遅刻しない程度に道草を食ってみませんか？秋風が爽やかな季節、秋の野草が可愛らしい花を咲かせています。今年は春からずっと大変な毎日でした。こんな時だからこそ、いつもは通りすぎるだけのさりげない日常に、ちょっとだけ道草に目を向けてみませんか？ところがほわっとほぐれます。「そんな暇ない、勉強やバイトで忙しい」という人も、ところが元気になれば、きっと勉強やバイトも捗ると思いますよ。



## 「お〜っ、怖っ！お赤飯」

おじさんはよくお赤飯を作る。作ると言ったって、電気釜を使ってね。あっ、いけね〜「電気釜」なんて言っちゃった〜 最近は「炊飯器」って言うらしい。歳がバレバレだね。とにかく、おじさんは炊飯器でお赤飯を作るんだ。そんなこと言うと、若い人に、「ほかに方法あるんですか？」なんて言われそうだよ。でも、おじさんが子供の頃だと思ふよ、「電気釜」が普及したのは。その頃は、確かに「電気釜」って呼んでたんだ。いつから呼び方が変わったのかは知らないけど、電気釜が普及したのは1960年代らしい。それ以前は、普通のご飯でさえ、竈で炊いてたんだ。今度は、カマドって何だって言うの？いい加減にしてくれ〜！自分で調べてくれ〜！

昔は、普通のご飯はカマドで炊いたんだ。でも、お赤飯はカマドでは炊けず、蒸し器で作ったんだ。お赤飯は「おこわ」とも言うよね。「おこわ」って、漢字で「お強」と書くらしい。もともと「強飯」、堅い飯、もち米のご飯のことなんだ。お赤飯もおこわの1つなんだけど、普通、「おこわ」と言えばお赤飯のことだよ。

お赤飯は、もち米で「おこわ」と言うくらいだから、堅くなきゃいけない。電気釜と言った時代には、たぶん堅いお赤飯は作れなかったんじゃないかな。作っ

たことはないけど、もし作っていたら、「おこわ」じゃなくて「およわ」になっちゃったかもね。何だ、その「およわ」っていうのは？「おこわ」が堅い「お強」なんだから、べちゃべちゃのもち米ご飯は、「お弱」でいいんじゃない？そんなのないか〜 あっ、そう言えば、やわらかいご飯を「お粥」って言うけど、なんか漢字が似てないか？単なる気のせいかな〜？

電気釜から炊飯器って呼び方が変わった頃かは定かじゃないけど、マイコン（マイクロコンピュータ）が電気釜に取り入れられ、色んな炊き方が出来るようになって、お赤飯も炊けるようになったんだと思うんだ。それで、おじさんも、簡単にお赤飯が出来るようになったと言う訳さ。メデタシ、メデタシ。

あっ、これで終わっちゃ、ダメだった。いつの間にか炊飯器の話になっちゃったよ。ホントは、お赤飯の話しようと思ってたんだ。お赤飯には、「小豆」を入れるのか？はたまた、「ささげ」を入れるのか？とかね。おじさんは、いつも小豆を入れている。あ〜っ、もう紙面がない。続きは次回だね。なにに、「もっとまじめにやれ〜っ！」だって。「お〜っ、怖っ！」「おこわ」だけに、堅いこと言わないでよ〜。



## SUMSヘルシーキッチンスタジオのご紹介

副学長（国際戦略担当）・保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授 高木 久代

2020年3月、市民公開講座や日本薬膳学会で地域の皆さまに薬膳料理などを学んでいただく場として、「SUMSヘルシーキッチンスタジオ」が東洋医学研究所の1階に完成しました。今般の新型コロナウイルス感染症の影響で、皆さまにご利用いただく機会をまだ設けることができていませんが、テレビ番組や新聞で度々紹介されています。

ケーブルネット鈴鹿・四日市では、番組「北勢情報トライフル！」中「かんたん薬膳であなたも健康に！」と題した5分間のコーナー番組が4月から1年間にわたり、毎月1日～15日に1日3回ほど放送されています。番組では誰でも簡単に取り入れられる薬膳を使ったレシピを紹介していま



秋のチョットおしゃれな白菜ミルフィーユ・杏仁と梨のデザート・玄米パン・杜仲茶（「かんたん薬膳であなたも健康に！」10月放送メニュー）

す。薬膳についての知識や関心をもっていただくためのワンポイントアドバイスもあり、旬の食材や調理のコツを丁寧に解説しています。

また中日新聞では、県内のほぼ全域で「久代先生のおうちで薬膳」が7月から8月に5回にわたって連載されました。夏を健やかに過ごせるようにと薬膳レシピを紹介し、食事とおして健康維持と病気を未然に防ぐための食養生を促す考え方を取り入れています。

いずれも私が監修したレシピをSUMSヘルシーキッチンスタジオで撮影収録しており、FMラジオNHK津放送局による生中継も実施されました。今後も皆さまのお役に立てる情報を発信していきますので、ぜひご活用ください。

### 行事予定

2020年11月～2021年2月

- 11月4日（水）・5日（木）秋期定期試験と解説
- 6日（金） 大学祭準備（休講）
- 7日（土） 大学祭
- 8日（日） 大学祭片付け
- 9日（月）・10日（火）秋期定期試験と解説
- 18日（水） 補講日
- 19日（木）・20日（金）学校推薦型選抜（推薦）
- 23日（月・祝）月曜授業日
- 12月5日（土） 補講日
- 12日（土） 秋期追・再試験  
学校推薦型選抜（指定校のみ）  
総合型選抜（AO3期）  
編入学試験第2回
- 19日（土） 補講日
- 25日（金） 学生冬季休業（～1月5日）
- 26日（土） 冬季一斉休暇（～1月5日）
- 1月6日（水）・7日（木）・12日（火）補講日
- 13日（水）～22日（金）後期定期試験

- 1月15日（金） 大学入学共通テスト準備  
千代崎：休校（立入禁止） 白子：休講
- 16日（土）・17日（日）大学入学共通テスト（1）  
千代崎のみ：立入禁止
- 21日（木） 薬学研究科学学位審査発表会
- 25日（月）～2月2日（火）  
後期・冬期定期試験と解説
- 28日（木） 一般選抜A日程準備  
千代崎：休校（立入禁止） 白子：休講
- 29日（金） 一般選抜A日程  
千代崎：休校（立入禁止） 白子：休講
- 30日（土）・31日（日）大学入学共通テスト（2）  
千代崎：立入禁止
- 2月3日（水）～5日（金）・8日（月）～10日（水）  
・12日（金）・15日（月）～19日（金）  
・24日（水）～26日（金）  
授業・試験のための予備期間
- 13日（土） 医療科学研究科学学位審査発表会
- 22日（月） 9月22日分振休による一斉休暇

※上記予定は変更になる場合があります。サムスポおよびホームページで最新情報を確認してください。